

号外

# UNN関西学生報道連盟

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4階 TEL 06-6307-1315  
FAX 06-6829-6353 Mail:info@unn-news.com HP:http://www.unn-news.com/

settsu studio  
就活に強いフォトスタジオ

TEL 078-451-1601  
http://www.settsuphoto.com/  
営業時間 10時~20時 日曜日定休(予約時は営業)

## 阪神・淡路大震災 17年

# 1.17 思い出してや 今日やんか!

1995年1月17日、最高震度7の巨大地震が阪神地域を中心に被害を与え、6434人が亡くなった。東日本大震災を経た17年目のこの日にもう一度1.17について考えたい。



倒壊した阪神高速神戸線 (ニュースネット委員会)

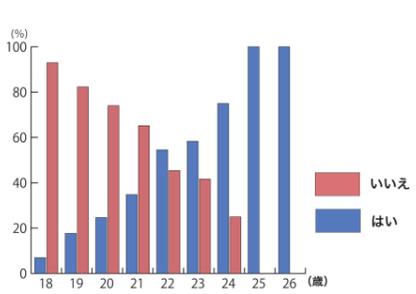


図1: 阪神・淡路大震災が発生した当時体験したことで覚えていることはありますか?

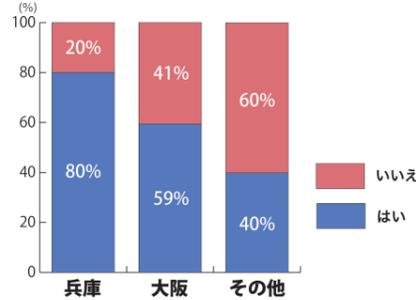


図3: 1月17日を阪神・淡路大震災の起こった日だと意識できますか?

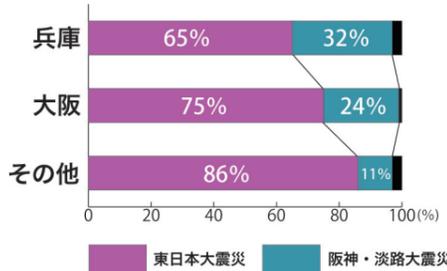


図2: 現在、震災といえば?

### 学生震災意識アンケート

UNN関西学生報道連盟では、兵庫、大阪、京都の大学生に震災への意識に関するアンケートを実施した。アンケートはUNN加盟大学のキャンパスで行い、506人から回答を得た。

## 兵庫で影響なお色濃く

歳月の経過と東日本大震災の発生は阪神・淡路大震災を薄れさせている。しかし、被災地出身の学生の意識には依然大きな影響を及ぼしている。今回のアンケートからはこんな結果が浮かび上がった。

阪神・淡路大震災発生から17年。図1のように22歳を境に発生の記憶をもつ層とたない層が交差している。これからはますます記憶のない層が増えることとなる。

「現在、ふたんのあなたの生活において阪神・淡路大震災について意識することはあるか」との設問の自由記述欄には「今でも家や道路にひび割れが残っているのを見たとき(兵庫県・18歳)など、いまだ残る痕跡が想起の引き金になっている様子が、被災地出身の学生の間に見られた。逆に復興をとげたいという切実な思いが、思い出すという回答も多かった。

「東日本大震災が発生したとき、何らかのことで阪神・淡路大震災が思い浮かんだ」という設問の自由記述欄には「あの時のような悲惨な事態になるかも(愛知県・21歳)」と被害の規模を比べる回答が目立った。一方で「ダンスの下敷きになったことを思い出した(大阪府・24歳)」と自身の体験を思い出す回答も少なくなかった。

### 1・17胸に刻んで

今回のアンケートで阪神・淡路大震災の記憶が薄れていることが浮き彫りになった。その一方で被災地には依然強い影響を残しているという結果が出た。当時を知る人からは、兵庫ではとんでもない状況になっているにもかかわらず、大阪の方に出ると街がまったく普通で機能していたという声がかかる。影響が少ない地域で阪神・淡路大震災を覚えていくのは、災への関心が薄れていくのとは違うのかもしれない。しかし、年に一度の1月17日だけは学生である私たちが、日たけは学生である私たちが、いかに震災に思いを馳せたい。すでに記憶のない学生も多くなる。数年後にはそもそも生まれていない世代も学生になっていく。このような状況だからこそ、いま一度胸に刻んで、そこから何かを変えていきたい。

### 兵庫県立大 防災教育センター

昨年、兵庫県立大に防災教育センターが発足した。阪神・淡路大震災を記念して建てられた「防災未来センター」(神戸市中央区)内に設置された。センターの森永速男准教授に学生と震災の関わり方について聞いた。

### 森永速男准教授

「『こつちで起こったこと忘れるな』について『震災への意識が低いとは思わない』と話す。特に兵庫の学生は意識が高」という。「阪神・淡路大震災についてこの世代から語り継がれてきたことのほか、小中学校の教育や1月17日関連の行事の実績など」と要因を指摘。兵庫県大には、学生約

### 「こつちで起こったこと忘れるな」

5000人のうち東日本大震災のボランティアに200人が応募した。

一方で震災に関心のない学生もまた多く存在する。しかし、森永准教授は現状を肯定する。「大震災が起きたとき、即座に動いてくれたらいい」と語り、今はいい状態だと思ふ。無関心な学生もいるのは皆からずっと一緒だからこそ「こつちで起こったこと忘れるな」。

防災教育センターは阪神・淡路大震災の教訓を受け継ぐとしている。東日本大震災が発生した今、その教訓を語り継ぐことの意義とは。「向こうで大きな災害があったからといってこつちで起こったことを忘れてはいけない。一方で、次に起こる震災には大津波があるかもしれない。両方の情報を融合して、より伝えていかねばならない」。



盛んに掛け声を上げ募金を呼びかける学生ら。募金した人からは笑顔がこぼれた(12月12日・ルミナリエ会場で 撮影=田中郁考)

## 学生「思い」つなぐ ルミナリエで学生活躍

今年もまたお年寄りに届ける。また全日程でさまざまなアーティストを招いて追悼コンサートを行った。2008年、ルミナリエのポスターのデザインを依頼されたことをきっかけにプロジェクトが始動。阪神・淡路大震災の風化を防ぐべくさまざまな活動を続けてきた。現在ではゼミ生以外の学生や社会人も関わっている。

### 光る募金箱自作 神戸大

12月1日から12日まで開催された神戸ルミナリエで、神戸大本部の塚本研究室の学生らが、自作の「光る」募金箱で募金活動を実施。ルミナリエ継続のために、およそ82万円を集めた。

### 缶バッジに想いを 神戸芸工大

神戸芸術工科大学のかわいひろゆき教授のゼミ生らは、震災を風化させないために「ヒトキズナ。つなぐ」を展開している。ルミナリエでは、参加者が「想い」を表現した缶バッジを集める企画を行った。開催期間中の12日間で7324人が参加。集めた缶バッジは東日本大震災で被災した



言葉が並ぶ缶バッジ(12月12日・ルミナリエ会場で 撮影=田中郁考)